

阿部真比古・村瀬 昇：下関市立しものせき水族館海響館 オープンラボ「海藻おしばアート」開催記

2001年4月にオープンした下関市立しものせき水族館・海響館は、今年で12年目を迎えました。2010年3月には、国内最大級のペンギン展示施設「ペンギン村」を新たにオープンさせ、ますます多くの人で賑わっています。独立行政法人水産大学校は、海響館と協力・連携し、海の生物と触れ合い、関心をもってもらうための取り組みを行っています。そのひとつが、海響館に設けられた無料スペースを使い、本校教員が入れ替わりで担当するオープンラボです。オープンラボでは、魚類の形態観察、貝を使った染色、海洋温度差発電など様々な催しが行われています。著者らは、オープン当初から今日まで春と夏休みの年2回「海藻おしばアート」を開催しています。「海藻おしばアート」では、普段触れることの少ない海藻のカラフルさや美しさを知ってもらい、自分だけの「ポストカード」や「しおり」を作って、持って帰っていただいています。1日3回で各回30分ずつ、大人も子供も関係なく大勢の来館者が立ち寄ってくれます。

海藻は食文化として日本人には馴染みがあるものの、実物を見たことがある人は少ない現実があります。海響館と本校が共同で実施したアンケート調査（中村ら 2003）によると、小学生未満から社会人のどの年齢層においても、何らかの形で口に入れたことがある海藻の認知度が高く、特にワカメ、ノリ、ヒジキ、コンブが身近な海藻といえます。しかし、ノリに関してはアサクサノリ、アオノリ、フノリなどの総称として理解している人が多く、海藻サラダの原材料名にあるアオトサカやアカトサカ、メカブという海藻が存在すると思っている人もいます。食用以外の海藻は尚更遠い存在になります。実際、「この緑色の海藻はワカメですか?」、「ユカリって、あのご飯にかけるゆかりですか?」という質問は後を絶ちません。そこで、食用になっているワカメ、ヒジキ、ヒトエグサ、スジアオノリ、ムカデノリ、マクサなどの標本を作成し、標本と一緒に市販の加工品を並べて置くようにしています。実物を見て驚く方も少なくありませんが、「どうすれば、緑色（黒色）になるのですか。」など、加工品の製造過程に関する会話へと広がります。海藻おしばの作成に関しては、誰かが作り始めると、釣られるように人が集まり、思い思いに作っていくところは面白い点でもあります。また、海藻おしばを作る子供たちの柔軟な発想や海藻商品を手に一般の方々との海藻談義は、我々が勉強になることも多くあります。さらに、オープンラボには本校の学生が参加し、海藻おしばの作成指導や一般の方との交流を通じてコミュニケーション能力を養う良い機会となっており、学生への教育的な効果が期待できます。

海響館には藻場をテーマとした水槽があります（村瀬 2001）。この水槽には、シシオドシ式造波機とスクリー式造波機が設置され、シシオドシ式は水面をたたきつけるように大量の海水が注ぎ込まれます。この時にできる小さな泡は、照明からの入射光を乱反射させ、水槽内を瞬間的に明るくします。その景観は、海中



「海藻おしばアート」開催中の様子とおしば作成中の来館者

から見る岩をたたく荒波を想像することでしょう。その波動でノコギリモクヤツルアラメなどの大型海藻がユラユラと動く様は「癒し」の空間と言ってよいと思います。ある研究報告では、水族館に展示されているひとつの水槽の前に来館者が立ち止まる時間は、平均20~30秒程度だそうです（林ら 1994）。しかし、この藻場水槽の前に立ち止まる時間は、最大でも15秒程度です。水族館の担当者と話しながら、まだまだ展示方法について試行錯誤している状況です。

今年度は夏休み中の8月23日から9月2日にも「夏休みお助け先生 海藻おしばアート」と題して「海藻おしば」だけではなく、夏休みの自由研究などで作成した海藻標本の同定なども行う予定です。下関にお越しの際は、是非海響館に足をお運びください。

最後に、オープンラボの開催にあたり、海響館スタッフの方々には様々な面でのご理解と多大なるご協力を頂いていることに感謝申し上げます。

引用文献

- 林 正輝・坪山幸王・佐藤信治 1994. 水族館に関する建築計画的な研究 来館者の観覧行動—その2 立ち止まり観覧時間について—. 日本建築学会大会学術講演梗概集 637-638.
 - 中村清美・和田政士・里村美加・中野真理子・松井 創・藤村修平・村瀬 昇 2003. 「海藻おしばアート」の取り組み. 海苔と海藻 65: 28-39.
 - 村瀬 昇 2001. 海のいのちを育む海藻草類の展示—市立しものせき水族館「海響館」—. 藻類 49: 145-147.
- (独立行政法人水産大学校生物生産学科)

下関市立しものせき水族館・海響館

URL: <http://www.kaikyokan.com/>
開館時間: 9:30~17:30 休館日: なし
入館料: 大人 2,000円, 小・中学生 900円, 幼児 400円, 3歳未満は無料
アクセス: JR 下関よりバスで7分, JR 新下関よりバスで30分 最寄りのバス停: 「海響館前」もしくは「唐戸」, 中国自動車道下関ICより車で15分